

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 2月25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1473800629
法人名	医療法人社団朝菊会
事業所名	グループホーム池辺
所在地	横浜市都筑区池辺町2218 (電話) 045-949-3203

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	横浜市港北区新吉田東5-76-35		
訪問調査日	2008/2/18	評価確定日	3月27日

## 【情報提供票より】(20年 2月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 10 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 12.6 人	

### (2) 建物概要

建物構造	RC 造り		
	3 階建て	2 階 ~	3 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,070 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 102,210 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	900 円	

### (4) 利用者の概要( 2月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	3 名	要介護2	8 名		
要介護3	3 名	要介護4	4 名		
要介護5	名				
年齢	平均 80.4 歳	最低	71 歳	最高	90 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団朝菊会クリニック池辺
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

◇事業所は横浜市北部の豊かな自然に囲まれた閑静な地にある。「自由に、ありのままに、その人らしく」の理念の通り、利用者は地域住民の一人として、また、利用者と職員が家族の一員として普通に生活している。  
 ◇同じ法人のクリニックと老健が併設しており、病気の時はすぐに受診できて入院可能であり、重度化した時や終末期においても医療と福祉の連携の中で、最適の医療と介護が保障されているので、利用者は安心して毎日を過ごしている。  
 ◇経験豊かな職員が一人ひとりの利用者の気持ちに寄り添い、利用者が掃除や料理の手伝いなどできることを自分の意思でやり、張り合いと喜びの持てる生活ができるように支援している。

重点項目①	<b>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</b> 前回評価で改善点の指摘はない。前回の自己評価の中でリビングにパーティションを置く案があり、実際に設置して利用者とともに安全性に対する評価を行うなど、利用者が快適に生活できるように前向きな取り組みをしている。
	<b>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</b> 今回の自己評価は、評価項目を職員に配布し、前回の評価項目との違いを確認し意見を出し合い、全職員で評価を行い管理者がとりまとめた。
重点項目②	<b>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</b> 既に2回の運営推進会議の実績がある。地域の自治会長と地域包括支援センター、家族及び利用者の代表が参加メンバーである。外部評価の結果を報告し、地域行事への取り組みについて意見を交換した。地域住民と利用者・家族の意見の違いを話し合う中で、利用者・家族と住民の相互理解を深めている。
	<b>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</b> 苦情解決要綱を定め、苦情解決の責任者と正副の相談窓口を選任し、利用者や家族の苦情を密室化することなく、迅速かつ適正に対応することを規定している。また、苦情や要望に対する解決と改善の検討会の開催を明記している。面会の際に家族の意見や要望を業務日誌や申し送りノートに記録し、カンファレンスで職員に周知している。
重点項目③	<b>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</b> 地域の自治会に入会しており、地域の人々の協力で餅つき大会、芋掘りなどを行っている。地域への貢献では、利用者と共にゴミ拾い、草取りなどを行っている。地域住民の理解も徐々に深まり、散歩の際など近所の人から声を掛けられる事が増えている。
重点項目④	

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念「自由に、ありのままに、その人らしく」を掲げ、利用者が生きがいを持って生活できるよう支援している。職員が自分の家族と同様の生活をしている気持ちで利用者と接しており、呼び名も家族に確認し、共通の言葉を使う配慮をしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関に掲示し職員や利用者にも周知している。フロア会議やカンファレンスの場では、理念に沿ったケアの取り組みであることを職員間で確認している。また、日々の生活において、利用者にも無理強いないこと、決め付けないことを心がけ、理念の実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に入会し、職員、利用者ともに草取りやゴミ拾いの地域活動に参加している。また、夏祭りなどの地域行事にも参加している。事業所の餅つきや芋掘りなどは地域の人々の協力を得て実施している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、評価項目を職員に配布し、意見を出し合い、全職員で評価を行い管理者がとりまとめた。前回の自己評価でリビングにパーティションを置く案があり、実際に設置して利用者と共に安全性に対する評価を行うなど、利用者が快適に生活できるように前向きな取り組みをしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、自治会長と地域包括支援センター、家族及び利用者の代表が参加し、既に2回実施している。外部評価の結果を報告し、地域行事への取り組みについて意見を交換している。地域住民と利用者・家族の意見の違いを議論する中で、利用者・家族と住民相互の理解が深まっている。		

グループホーム 池辺

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居時の住所問題や退所時の受け入れ先の問題などの困難事例については区役所と相談して対策を講じている。また、生活保護の適用についても区のケースワーカーと連携して対応している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に利用者の生活状況を口頭で報告し、来訪できない家族には電話で報告している。家族からの相談ごとや希望・意見は業務日誌や申し送りノートに記録し、カンファレンスで職員に周知している。家族便り発行の要望があり検討中である。	○	家族便りは家族とのコミュニケーションを深める上で極めて有効と思われる。実施されることを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際に家族の意見や要望を聞いている。「行事に参加したい、事業所の食事を食べてみたい」などの要望に対応している。意見箱を設置し、苦情や意見はサービス向上に役に立つことを家族に伝え、協力を求めている。家族の苦情は苦情受付表に記録している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年3月に事業グループに新しい施設が開設し職員の異動があったが、その後はなるべく異動が無い様に配慮している。居室担当職員が利用者との馴染みの関係を作り、利用者の安心感につなげている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立て内部研修や外部研修に積極的に取り組んでいる。管理者は不明な点は、その都度指導しアドバイスしている。月に1回、食中毒や口腔ケアなど現場の課題について勉強会を実施している。外部研修は今年度マナーや認知症、職員のストレス管理に関する専門家の研修を受講した。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡会や県のグループホーム協議会に入会し、外部研修での意見交換や他施設への相談などで情報交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学で趣味やレクリエーションを通して他の利用者との交流を図り、本人が納得してから入居してもらっている。入居後1か月程度は環境の変化に不安を感じないように注意している。利用者同士の会話で本人が落ち着くこともあり、職員が話しやすい雰囲気作り配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で、料理、裁縫、草花の手入れなど一緒に過ごす時間は多く、職員が利用者に学ぶことは多い。本人の意思を尊重し、無理強いにならないよう気をつけている。利用者同士で声掛けし、自主的に掃除をしたり、食事の準備を手伝っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	興味のあることなどをさりげなく聞いて利用者本人の意思の把握に努め、利用者との相性の良い職員が対応することで、話しやすい関係を築いている。問題があるときは申し送り書や口頭で管理者に伝え家族と相談している。また、家族の協力のもと本人の生活歴の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	居室担当職員の利用者日常生活情報をもとに、フロア会議で利用者一人ひとりの状態について、職員の意識の共有を図っている。フロア会議とアセスメントの結果、及び家族の要望をもとに、医者や看護師、管理栄養士の意見・要望を取り入れ、月1回のカンファレンスで利用者の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は利用者の状況に応じてカンファレンスを行い、6か月毎に見直しを行っている。また、入居時はADLの落ち着き状態を見て1か月後に見直している。併設するクリニックの医師や看護師の意見を取り入れ、現状に即した無理のない計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のクリニックで利用者の小さな体調の変化もすぐに相談し診てもらっている。隣接する法人グループの老健と連携し、グループホームでできるリハビリを実施している。また、認知症介護予防事業者として、年に1回地域ニーズに応じて介護予防講演を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、適切な医療が受けられるように説明している。隣接する法人グループのクリニックの医師が主治医として利用者を診ている。かかりつけ医は本人の希望を尊重して決めている。歯科医は週に1回往診し、口腔ケアの指導もしている。週に1回看護師がバイタルチェックを確認し、健康管理を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の利用者に対しては、隣接するクリニックと老健を含めた法人グループとして最適介護に努めている。事前に本人や家族の意向を確認し方針を共有している。職員に対しては終末期介護の勉強会や救急蘇生の研修を実施している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	事業所の運営方針に利用者一人ひとりの人格とプライバシーを尊重することを明記し、職員全員に周知している。個人情報保護については、職員の入職研修で説明し、個人を判別する情報の取り扱いを徹底している。ホーム内での写真や作品の掲示については家族の承認を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者に決して無理強いをしないように心掛け、一人ひとりのペースに合わせて生活ができるように支援している。食事やおやつ、体操の時間も本人の希望により調整している。誕生会のメニューは本人の希望を取り入れ、本人のペースに合わせて本人らしさが発揮できるように配慮している。		

グループホーム 池辺

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使用し、盛り付けも工夫して楽しい食事を心がけている。利用者個々の能力を活かして職員と一緒に調理の手伝いや配膳、後片付けを自ら進んでやっている。家族の承認のうえで、包丁などの刃物を使用する利用者もいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回であり、入浴の時間は利用者の希望に合わせている。入浴介助は利用者が希望する職員が行うように配慮している。また、同性介助の希望に対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や掃除など各々に役割を持って、張り合いのある生活ができるように支援している。また、日曜大工や裁縫、書道など個々の特技を活かして、職員と一緒に楽しめる工夫をしている。書道を好む人が多く、消しゴムを利用して作った自分の落款を押している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は出来るだけ外出支援をしている。(平均週3回)。近所の公園や施設周辺が主な散歩コースであるが、交通量が多いため、車でのドライブも取り入れている。1日おきの買物にも職員と一緒に出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は電子キーで通常ロックしている。いつでも利用者の要望に応じて職員が対応している。フロアキーも通常は閉めた状態であるが、外出願望の強い利用者には、個々の思いに寄り添い、違和感を与えないように配慮している。居室の鍵は利用者が所持している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回消防署の協力を得て避難訓練を実施している。訓練は近隣の特養と連携し、避難誘導や消火器担当など職員の役割分担を決めて実施している。地域の自治会と消防応援協力協定を締結し、災害発生時の相互協力体制を敷いている。備蓄は地域の人々の分も想定し300食分を用意している。		

グループホーム 池辺

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月に1回、併設の老健の管理栄養士に献立の栄養バランス、カロリーの摂取状況を確認してもらい、献立についてのアドバイスを受けている。水分の摂取量は残している量で定量的に把握し、バイタルチェック表に記録している。刻み食やトロミの個別対応や糖尿病の利用者に配慮している。		
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは眺望に恵まれ広くて明るい。テーブルで絵手紙を描いたり、ソファでテレビを見たり、またキッチンに近いテーブルで昼食の準備を手伝ったり、利用者が思い思いに過ごしている。リビングや通路の壁に習字や絵手紙などの利用者の作品が掲示され、植木鉢の花が季節の彩りを添えている。トイレや浴室は安全とプライバシーに配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはそれぞれの使い慣れた寝具やテレビを持ち込み、好みのカーテンを取り付け、新聞や本を置いている人もいる。室内にソファを置いて家族や友達と団欒できるようにしている人もいる。転倒防止に配慮しキャスター付きの家具を置かないようにしている。表札は家族の了解を得て写真入りにしたことで、部屋を間違えることがなくなった。		

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者と職員が家族として生活する姿勢を持ち、地域を意識した生き甲斐のある暮らしを盛り込んでいる。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の業務の中で話し合い、理念の実践に向けて取り組んでいる。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	玄関やユニット入口の見やすい場所に理念を掲示している。入居時やご家族の面会時も説明している。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的な散歩での挨拶や何気ない会話は行っている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に入会しており、運営推進会議を通して行事への協力依頼、地域活動の参加を行っている。	



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	横浜市より認知症予防介護事業の委託を受け年1回程度講演を行っている。町内への回覧板やチラシにより協力を得ている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	自己評価により、日頃の活動を見直し、外部評価により不足している取組に気づき、改善に取り組んでいる。		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	自治会長やご家族の方、地域包括支援センターへの行事実施の報告や、外部評価結果、施設の取組を報告し、意見を出して頂き、職員へ通達し日常業務に役立てている。		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	解決困難な問題が発生した際、区役所の窓口へ直接出向き、意見を頂いている。		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	権利擁護や制度について研修に参加し、職員に伝達している。必要な方には、それらの活用ができるよう支援している。		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	職員が高齢者虐待について学び、虐待のない介護を実践している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>面談時に口頭で説明し、入居時に文書と口頭にて再度説明している。不明な点などの問合せ時には、その都度説明を行っている。</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々の生活の中から気付けるよう、コミュニケーションを多く取り、傾聴するようにしている。ケアプランに取り入れ、日々の生活に反映している。苦情は、管理者が対応し職員に到達、教育指導を行っている。</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時に口頭で報告し、面会に来られないご家族へは、電話にて報告、相談を行っている。各フロアーに、作品を展示し日々の暮らしを垣間見ることができるようにしている。</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時や電話連絡の際に、意見等ないか促している。また、入居時に渡している重要事項説明書に区役所や国保連合の苦情受付窓口の連絡先を記している。</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>勉強会、会議、カンファレンス等を行い、意見交換の場を作り、問題点の改善、質の向上を図るようにしている。</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>随時、勤務調整を行い、柔軟に対応している。</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ダメージを考慮し、なるべく異動は行わない。やむを得ず離職があった際には、なじみの職員が一人ひとりに紹介し、安心感を与える等の工夫をしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、外部研修への参加、日々のサービスを振り返り、技術向上、質の向上に努めている。不明な点は、その都度指導、アドバイス等を行っている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡会や県のグループホーム協議会に入会し、外部研修での意見交換や他施設への相談等を行い、いろいろな意見を取り入れ、質の向上に取り組んでいる。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員会議での意見交換、話し合いの他、個々に不安や不満を聞き、助言、改善策等を話し合っている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勉強会、カンファレンス等での、情報交換や個人へのアドバイス等を積極的に行っており、分からない事は、明確にするよう、各自日々の業務の中でも聞くように指導徹底している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面談時に、できるだけお話を伺い、要望等確認している。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の立場になり、傾聴するよう心掛け、ゆっくりお話を聞くようにしている。不明な点はできるだけ明確にわかりやすく説明するよう心掛けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービ ス利用も含めた対応に努めている	問題点を細かく検討し、ご本人、ご家族と相談し、必要に応 じて関係者からの意見を取り入れ、対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用 するために、サービスをいきなり開始するの ではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気 に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工 夫している	見学時や面接時に、他入居者との交流を図っており、趣味 活動やレクリエーションを通して徐々に慣れて頂けるよう工夫 している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本 人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で、一緒に過ごす時間を多く作り、料理や 裁縫等を学んだり、教えていただいている。入居者の方々に 役割を持って頂き一緒に行っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えて いく関係を築いている	ご家族の不安や不満、意見に傾聴し、不安や不満の軽減が できるようにしている。ご家族への協力等を依頼し職員と共 に入居者を支えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努 め、より良い関係が築いていけるように支援し ている	日常会話やご家族より得た情報をもとに理解に努め、個別の 対応をし、支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないよう、支援に努め ている	面会や電話、手紙等の活用。ご家族に協力して頂き、連絡 をとって頂いている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合え るように努めている	共通の趣味活動やレクリエーション、清掃等、一人一人が孤 立しないよう支援し、交流の場を多く設けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	定期的に連絡をし、相談等を受け支援している。施設やご自宅へ退居後の様子を伺い、必要に応じて情報提供している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の表情や言動等から読み取れることやご本人の訴えに傾聴し、検討、実施している。困難な場合は、ご家族からの情報等によりできる限り対応している。		
34	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に協力して頂き、生活歴等の把握に努めている。ご本人との会話の中での気付きも大切にしている。		
35	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	記録、申し送り等を確実にし、カンファレンス、職員会議等で話し合い、状態の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時等にご家族に相談をし、意見を伺い、看護師、管理栄養士の意見も取り入れ作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化と共にカンファレンスを行い見直しを行っている。医師、看護師、管理栄養士等の意見を取り入れ、現状に即した無理のない計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活記録、投薬表、身体状況チェック表等、個別に記録しており、介護計画作成時にはアセスメント表を使用し、身体状況の変化を見ている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ADL低下等ご本人に変化がみられ、当施設での生活が困難になった時、また、ご家族からの要望等があった時は、ご家族へ情報提供を行い、ご本人に合ったサービス提供ができるよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	公的機関からの協力は必要に応じ要請。ボランティアに関しては、併設老健施設等の協力を得ている。		
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今まで他のサービス利用についての意向や必要性はないが、必要な場合は、併設老健施設を通じて、居宅のケアマネジャー等と連絡を取れるようにしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今まで地域包括支援センターとの協働の実績はないが、運営推進会議に地域包括支援センターの方も出席して頂いており、情報交換を行っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	面談時や入居時にご家族、ご本人へ確認し、適切な医療が受けられるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的を受診支援しており、病状の把握、認知症の進行状態等の把握に努め、必要な内服処方、説明、指示等を受けている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設するクリニックの医師、看護師と気軽に相談できるシステムを作っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	担当医やケースワーカーとの連携を図り、ご家族との話し合いにて早期退院できるよう支援しており、退院後の対応困難な場合、他施設の紹介やサービス等の利用を相談している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご本人、ご家族の意向をきき、医療機関の協力のもと全員で方針を共有している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご家族の意向をきき、医療機関に相談、連携のもと支援している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご本人が使い慣れた物やなじみのある物を利用して頂き、室内環境の変化を少なくできるよう工夫している。また、面会回数等ご家族に協力して頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>自尊心を傷つけない言葉掛けに配慮している。個人情報の取扱いには十分気を付け、人の目にふれるところに個人を判別する物は置かないようにしている。</p>	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>ご本人が混乱しないよう声かけ、説明を行いながら決めて頂いている。お話を聞く際、言いやすい職員や環境をできるだけ整えるよう努力している。</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>食事、おやつ、体操の時間は決まっているが、ご本人の希望により調整もしている。他の時間は、ご自分のペースで生活されている。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>ご本人の要望にこたえられるよう、ご家族の方の協力も得ている。</p>	
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>旬の食材、盛りつけ等工夫をし、楽しんでいただけるように努力している。個々の能力を活かし、片づけ、調理等行ってもらっている。</p>	
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>ご本人管理が困難な場合は、職員が管理し、支援している。</p>	



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、尚且つプライバシー保護に注意しながら対応している。言葉遣い、介助方法等、自尊心を傷付けないよう注意している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調や外出等により、希望に添えないこともあるが、その他はご本人の希望やタイミングに合わせて入浴をして頂いている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	空調や照明等、注意しながら調整している。共有スペースでの休息も取れるよう工夫している。個々の生活習慣を把握し、できる限りの支援を行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事準備や清掃等個々に役割を持って頂き、張り合いを持って頂けるよう支援している。日用大工や裁縫等、日常生活に取り入れ職員と一緒にやり支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理ができる方には所持していただいているが、他の方は、事務所にて管理し、必要に応じてお渡しし買い物等を行っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調、天候等にもよるが、できる限りの外出支援をしている。交通量が多いため、ドライブ等も取り入れている。		外食、お花見等を計画中
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	地域のお祭り、レストラン、ドライブ等を行っており、遠方な場合はご家族に協力して頂き、外出支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じ、ご家族へ確認を行う事もある。特に規制することなく行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	行事等のお知らせをし参加を呼び掛け、気軽に来ていただけるよう、職員一人一人が笑顔で接している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束について理解しており、拘束をしないケアに取り組んでいる。身体に危険が及ぶ場合、書面と口頭にて説明をし、承諾を頂いてからの実施としている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	出入口は、電気錠で管理しているが、外出を妨げる意図はなく、要求があれば開放するようにしている。職員の目が届かない状態にある時の事故防止対策である。居室の鍵はご本人が管理している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は利用者の気分を損ねないように注意し、配慮しながら所在確認をしている。夜間、覚醒時は必ず見守りを行い、定期的に巡視を行い所在確認、安全保持に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品類は、鍵のかかるところに収納している。ハサミ、裁縫道具等、その都度数量を確認し事故防止に努めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	勉強会、職員会議にて定期的に話しをし、確認をしている。定期的に避難訓練を行い、消防隊員の方より指導を受けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	看護師に協力して頂きながら、定期的に訓練を行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練、勉強会を行い、学んでいる。また、地域の自治会と「消防応援協力」の協定を結んでおり、災害時の相互協力を確立している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	カンファレンスや職員会議等での話し合いの結果をご家族へ報告し、ご本人への負担等少ないよう対応していけるよう話し合っている。職員が個々に危険予測をし、職員会議等で意見交換をし日々のサービスに役立てている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	定期的にバイタル測定を実施。顔色や表情、言動等にも注意を払い、異常発見時は、併設クリニック受診を行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一包化を徹底しており、内服薬準備も2名で行っている。与薬の際は職員が確認し誤薬防止に努めている。投薬表にチェックを行い、変更時等申し送り等にて職員が再確認するよう徹底している。薬剤師に協力して頂き、副作用、用法等の指導を受けている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事形態、食事量、水分量の把握に努め、体操やマッサージ等を行っている。また、排泄チェックを行い、便秘が続いている場合クリニック受診を行い、相談をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケア介助の徹底をしている。歯科医師による口腔内診察等を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>随時、管理栄養士にチェックしてもらっている。刻み食やとろみ等個別対応している。</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>マニュアルがあり、職員は熟読している。また、関連医療機関の指導のもと、随時変更され、それらを実践している。</p>		
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>調理器具の消毒、手洗いの徹底や食材を小まめに購入し使い切るようにしている。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>植木や草花を飾っている。清掃等の徹底。</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有スペースには、季節ごとの利用者の作品や書を展示し、ゆったりとくつろいで過ごせるよう生活感のある雰囲気作りを工夫している。日差しやテレビの音量などは、希望に応じて調整している。</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>窓際に椅子を置き、のんびりできるスペースを作っている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた家具や寝具を持って来ていただき使用して頂いている。生活用品も使い慣れた物を使用している。		
84	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間換気しており、毎日定期的に窓を開け空気の入換えをしている。トイレはこまめに清掃し消臭剤等の使用している。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行のさまたげになる物は置かず、安全整備の徹底をしている。手すり等の点検も定期的に行っており、自立した生活を送って頂けるよう支援している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	カレンダーを見やすい位置に飾っている。		
87	○建物の外周リや空間の活用  建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	プランターを使用し、お花の栽培をしている。畑もあり、野菜を栽培しており、種まき・水やり・収穫を楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目	
項 目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
	<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> ③たまにある
	<input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

できる限り利用しやすいよう、家賃等の利用料は低額に設定しているが、建物は鉄筋コンクリート造りで消防設備も整っており安心して生活できます。また、運営母体が医療法人なので医療連携の体制も整っている。